

## 編集後記

編集幹事の仕事を引き継いでから一年たちました。編集長と編集委員のみなさんのおかげでなんとかやってこれました。仕事を引き継いだのは名古屋大学に移ってきたときなので名古屋に引っ越してからもう一年たちました。この一年、週末は名古屋近郊をぶらぶらしています。先日は四日市から電車で30分ほどのところにある御在所岳という山に行ってきました。ロープウェイに乗るまで1時間30分も待ちましたが山頂からの眺めはなかなかのものでした。そこからは名古屋市街と琵琶湖が同時に見えるのです。よくわからない方は地図を見てみてください。

研究の過程においても往々にしてこのような瞬間がおとずれます。ああ、今やっていることはこんなことにもあんなことにもつながるのか、と今まで気が付かなかった関連性を異なった分野に見いだします。研究をしていて気分が高揚する時の一つだと思います。惑星科学はいろいろな分野のごった煮なので特に多いのかもしれません。御在所岳からの眺めはよかったのですが、おおぜいの人のため帰りのロープウェイは2時間近く待たされました。下に降りたときにはすでにバスはなく、暗い道を駅まで歩くはめになりました。このような局面にも研究の過程において往々にして遭遇します。

城野信一

編集委員

井田 茂 [編集長] 城野 信一 [編集幹事]

荒川 政彦 飯島 祐一 加藤 工 北島富美雄 倉本 圭 小林 直樹 高木 靖彦 高田 淑子  
田近 英一 出村 裕英 中村 智樹 中村 良介 平田 岳史 松島 弘一 米田 成一 渡部 潤一

2001年12月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第10巻 第4号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 井田 茂 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大学院理工学研究科  
地球惑星科学専攻

印刷所 〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21  
日本学会事務センター内 日本惑星科学会  
TEL 03-5814-5801 FAX 03-5814-5820

次号 (vol11,no.1) より発行所は下記に変更されます。

発行所 〒107-0052 東京都港区赤坂4-1-32 赤坂ビル2階  
株式会社イーサイド 登録センター内 日本惑星科学会  
e-mail : staff@wakusei.jp  
Tel : 03-3585-8161 Fax: 03-3585-8162  
(連絡はできる限り電子メールをお使いいただきますようご協力お願いいたします)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を個人的な使用の目的以外で複写したい方は、著作権者から複写権等の行使の行使の依託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接日本惑星科学会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618, FAX: 03-3475-5619

E-mail: kammori@msh.biglobe.ne.jp

# 地球惑星科学関連学会連絡会ニュース

## No.3

(2001年10月)

### 2001年合同大会を終えて

- [1] 2001年合同大会の報告
- [2] 2002年合同大会のお知らせ
- [3] 2003年夏(6/30-7/11)は、アジア初のIUGG  
札幌総会へ
- [6] 第13回ゴールドシュミット国際会議  
(Goldschmidt 2003) 日本開催のお知らせ
- [5] 2001年度地球惑星科学関連学会長懇談会  
(拡大連絡会) 議事録
- [6] 第24回地球惑星科学関連学会連絡会議事録(案)

今号は盛りだくさんの内容となりました。これも各学会の活発な活動によるものと思います。さらに、2002年の合同大会から日本応用地質学会(大島洋志会長)が協賛学会として参加することになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

### [1] 2001年合同大会の報告

#### 1. 総括

2001年合同大会実行委員長 松浦 充宏  
皆様のご協力により2001年地球惑星科学合同大会を成功裡に終えることができました。大会の組織・運営に携わった者を代表して、参加者の皆様に深く感謝いたします。

本大会は、21世紀最初の大会であると同時に、1990年の第1回大会以来各大学LOCの持ち回りによって運営されてきた大会が「地球惑星科学合同大会運営機構」によって継続的に組織・運営されるようになった最初の大会でもあります。合同大

会運営機構は、これまで各大学LOCが大変なご苦勞を重ねて築き上げてきた遺産を継承・発展し、高度に専門化された諸研究分野の成果の上に成り立つ総合科学としての「地球惑星科学」の大会を目指して組織されたものです。2001年の大会は、合同大会運営機構がスタートして間もないことから、基本的には「継承」の面を重視した従来型の運営となりましたが、それでも、これまでの特別講演に代わる特別セッションの導入や団体展示ブースの新設など、幾つかの新しい試みも盛り込むことができました。

地球惑星科学関連の18学会の共催・協賛の下に開催された本大会には、2408名の方々が参加者し、1829件の論文が発表されました。また、団体展示の方も12団体がブースを設け、新たな試みとしてはまずまずの成功をおさめました。これらの成果は、2002年度以降の大会運営に反映されることになると思います。いずれにしても、合同大会の継続と発展は、参加学会と全国の研究者の協力なしにはあり得ません。その意味で、本大会に参加された全ての皆様に改めて深く感謝し、2002年合同大会への積極的参加をお願い申し上げます。

#### 2. 企画局報告

●青少年セミナーについて・[6月3日(日)13:30-16:00, C102]「惑星にはどのような風が吹いているのか?」-惑星の気象学-

東大・理 松田佳久助教授

「地球と我々は、どうなるのか?」-地球と人間圏の未来-

東大・新 松井孝典教授

## 「深海底を掘る」－未知の世界への挑戦－

東大・海洋研 平朝彦教授

前大会に引き続いての公開企画で、次世代を担う中高校生・一般の方々を対象に「未来の地球・未来の科学」という共通テーマで、「気象」「人間圏」「海洋」の第一線の研究者に、最新の情報・理論を分かりやすく解説していただいた。「理科離れ」といわれる昨今、普段触れることのできない本物の科学的考え方や、研究者ご自身の研究に注ぐその情熱を知ることができたと好評であった。参加者は100名ほど。

本企画のより充実を図るための今後の資料として、当日参加者へはアンケートを配布した。

### ●広報活動について

- 1) ポスター作成・配布：大会、青少年セミナー各200部ずつ作成した。関連専攻のある大学(95)、研究機関(20)、各新聞社・放送局科学部(20)等へは両ポスターを、会場隣接地区公立中学校、LOC2000より提供していただいた名簿(日本地学教育学会会員)を基に東京・埼玉・神奈川・千葉の高校(160)、東京近郊のプラネタリウム関連施設(30)へ青少年セミナーポスターを郵送し、大会及び青少年セミナーの参加を呼びかけた。
- 2) 新聞広告：朝日、読売、産経、赤旗各新聞で、「青少年セミナー」の広告掲載をしてくれた。扱いは小さいものだったが、掲載直後(大会10日前位)より、1週間で、事務局へ60件ほどの問い合わせが入った。実際アンケートの結果からも、一番の広告効果があったことがわかった。
- 3) 当日の取材記者への対応：事前(ポスター配布時)に、各社へ申込受付方法を連絡し、当日、基本的に前大会通り、「取材方法指示書」を受付にて配布。個別対応窓口は岩森プログラム副委員長に依頼した。前年の8社から、22社と来場マスコミ数は多かったが、特にトラブルもな

かったので、対応方法として妥当だったと思われるため、次大会も同様に手順で行いたい。

- 4) 今後の課題：1) 青少年セミナーの広告については、講師選定が難航し、内容の決定、ポスター作成等のスケジュールも遅れ、実質的広報活動に十分な時間が取れなかった。開催日時、ポスター作成、東京都教育委員会の後援取り付けなど、LOC2000からの申し送り事項を実行したが、さほどの効果は見られなかった。次大会は、まず、講師、講演テーマを早期決定が大切である。又、DMの効果向上のため、発送先の見直し、及びWEBでの広告にも力点をおき、より多くの青少年へのアピールを図りたい。2) 団体展示・書籍出版展示の募集・広告については、出展者、見学者双方にとってより有益に活用できるよう、会場設定、当日の会場案内方法、事前の広告方法等を総務局・プログラム局と共通の課題として再検討したい。

## 3. プログラム局報告

2001年プログラム委員長 阿部 豊

2001年大会はセッション数88(1コマ1時間半のセッション総コマ数231)総投稿数1829(口頭1163, ポスター666)のセッション数、コマ数ともに過去最大規模の大会となりました。セッションコンビーナ、プログラム委員をはじめ、大会に参加された皆様のご協力の賜とお礼を申し上げます。一方、いろいろな点で行き届かなかった点があったこと、特に、一部の投稿原稿の処理に関して関係者にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

2001年大会は基本的に1999年、2000大会の方式を継続しました。2001年大会での新しい試みとしては、セッションを「レギュラーセッション」と「スペシャルセッション」の2つに区分したこと、3月24日に安芸灘付近で発生した2001年芸予地震に関して、急遽特別セッションX0「2001年芸予地震速報特別セッション」を開催したこと、が挙げ

られると思います。

レギュラーセッションは5年程度は継続して開催される「定番」セッションとして、単一または複数の共催学会からの提案という形で募集しました。2001年大会では共催学会からの提案だけに限定しましたが、2002年大会からは一般公募のセッションも過去の実績に基づく審査の上でレギュラー化することとし、スペシャルセッション公募時にレギュラー化について希望調査を行いました。最終的にはレギュラー45セッション（コマ数119、投稿数1037）、スペシャル43セッション（コマ数112、投稿数792）が行われました。

芸予地震発生はプログラム編成終了後でしたが、この地震に関する速報講演の希望がありましたので、急遽セッション開催の可能性について技術的検討を行いました。その結果、・予稿集は作成しない、・直接担当コンピーナーに講演を申し込む、・投稿料は早期割引料金を徴収する、という形で空いている会場を利用してセッションを設定することができ、24件（口頭13、ポスター11）の発表がありました。2002年以降も突発的な地球科学現象があれば、プログラム委員会で議論して、必要に応じて同様な方式での緊急セッション設定を行うことになると思われます。

2002年以降に改善が必要と思われる問題点も多数ありました。一つは電子投稿に関するトラブルです。2001年大会に関しては、投稿締め切り直前の不具合のためにパスワード問い合わせに対して回答が送られなくなり、このことで投稿できなかった例が生じました。このため投稿締めきり終了後に一定期間投稿を受け付けるという措置を行いました。また、投稿確認メールも一時期発送されなかったため、多重投稿してしまった例が多数生じました。投稿者本人も多重投稿という意識がないことが多く、確認にやや手間取りましたが、最終的には全て検出し、投稿料が多重請求されないような措置を執りました。逆に、投稿したつも

りが投稿されていなかったケースも何件か発生しましたが、これはプログラムの最終確定後であったため、対処することができませんでした。著者名をID番号を用いて入力する際に、ID番号の入力ミスによって全く知らない人が著者に加わってしまった件も発生しました。人間が入力する以上、入力ミスを完全に防ぐことは不可能ではありますが、2001年の経験を生かして、確認画面の改善、投稿受理確認システムの整備を行うことによって投稿失敗や多重投稿を防ぐべく、2002年の準備を進めつつあります。

また、セッション数が増えたことに伴い、セッション記号に0とo, 1とl, 9とqとgなど類似した文字を使用する必要が生じました。このことによって投稿先を間違えた例も発生しましたので、2002年以降はこのような間違いが発生しないように記号システムの大幅な変更が必要となっています。

セッションの時間割はセッション提案時の希望コマ数に基づいて講演の募集以前に一旦決定し公表しましたが、実際に投稿が終わってみると実際の各セッションへの投稿数とセッションコマ数が非常にアンバランスになっていたため、投稿締めきり後に再調整が必要になりました。このことによって、セッション時間割設定が2度手間になっただけでなく、講演募集時に予定されていた日時にセッションが開催できなくなったことによって投稿者の一部に影響が出ました。2002年以降はセッション日時の設定は投稿数をもとにして投稿終了後に行う方針です。

2001年大会ではOHP1機を標準装備としました。スライドプロジェクターの使用希望は減少しつつありますが、PCに接続して使用する液晶プロジェクターの使用希望は急増しています。この点に対する対応も2002年以降の課題となっています。また、大会直前になって、システム上のバグによって、第一著者と発表者が違う場合に、プログラムでは正しく表示されるものの、予稿要旨では発

表者が最初に並ぶような誤りが発生していたことが判明しました。急遽修正版CD-ROMを作成して大会受付で配布しました。実は同じバグは2000年大会の予稿集にも生じておりましたので、2000年大会の予稿CD-ROM使用にあたってはご注意ください。予稿集とプログラムで著者順が異なる場合はプログラムの著者順が正しいものです。

そのほかにもまだまだいろいろと反省点が多い状況ではありますが、できることから順次改善策が講じられていくと思いますので、参加者の皆様にもご協力をよろしくお願いいたします。また、一般の大会参加者には目に付きにくいことかと思いますが、運営機構事務局にはプログラム編成上の様々な実際上の作業をしていただいております。プログラム委員会の事務作業は運営機構事務局の支援の基に成り立っていることを申し添えます。

## 4. 情報局報告

2001年担当責任者 田近 英一

合同大会のwebシステムはすっかり定着したようで、2001年版システムの利用に関する参加者の皆様からのお問い合わせはほとんどなく、無事にその運用を終了することができました。皆様のご理解とご協力に感謝致します。

当初計画では、今回はシステムの根本的な変更は行わず、主としてユーザー・インターフェースの改善を行うという方針でしたが、結果的には、セッション提案及び編集システムやプログラム編成関係のシステムをかなりいじることになりました。一方、多くの方々がご利用された各種登録システムに関しましては、ユーザー・インターフェースをいろいろと改善したにもかかわらず、まだ煩雑で分かり難い面が多く、来年度以降もさらなる改善に取り組む必要があると考えています。この点に関しましては、皆様からいろいろと助言をいただければと思います。

今回の合同大会では、システムの運用そのもの

に関しては大きな問題はなかったのですが、別の部分でいくつかの問題が生じました。まず、パスワードを確認することができないために予稿集原稿を投稿できなかったという問題が発生しました。パスワードを忘れてしまった方には、webからの問い合わせに対して自動的にメールで回答するシステムになっているのですが、締め切り直前になって、この自動回答システムが突然機能しなくなってしまいました。その結果、一部の方々が予稿集原稿を投稿できないという状況が発生し、混乱を招く結果となりました。結果的には、その後の対応によって投稿を受け付けましたが、関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。原因を調査しましたところ、サーバー上のメールシステム(sendmail)によるメール送信機能が突然停止していたことが判明しました。来年度以降このような事態が生じないように、業者側に強く申し入れを行いました。一方、プログラム編成作業が終了した後、CD-ROMを作成して皆様に配布致しましたが、配布後になって、各講演要旨において発表者が常に筆頭著者として表示されていることに気がつきました。このため、急きょ修正版CD-ROMを作成し、大会当日に受付で配布致しました。該当された方々には誠に申し訳ありませんでした。原因を調べましたところ、前年度の大会におけるシステムプログラムの問題点がうまく継承されていなかったことによるものでした。昨年以降、合同大会は運営機構によって継続的に運営されており、情報局におきましても、その年の担当責任者だけでなく、前年度と翌年度の担当責任者の3人と運営機構事務局とが密接に連携を取りながら運営しておりますので、今後はこのような継承ミスは発生しないものと考えております。皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

さて、合同大会の情報化によって、大会運営のかなりの部分が合同大会webシステムと密接な関係を持つようになりました。その結果、情報局の

雑務は膨大なものとなり、それを担う研究者の負担が大き過ぎることが、連絡会において問題となっていました。運営機構の設立には、情報局の仕事の大部分を運営機構事務局に移行していくことによってこの問題の解決を図る、という側面がありました。そこで、運営機構発足直後から、情報局は事務局と密接に連携しながら仕事をしてまいりました。その結果、初年度であるにもかかわらず、情報局関係の仕事の大半を事務局にお願いすることができました。早ければ1-2年後にも、研究者は重要な意志決定のみに関わればすむようになるのではないかと考えております。これまでの歴代の情報化委員長のご尽力にあらためて敬意を表しますとともに、事務局の方々には心から感謝致します。

## 5. 財務局報告

2001年担当責任者 中村 正人

2001年度の会計は、連絡会の監査を受け、適正な運営であったとのご報告を戴きました。ありがとうございました。

以下に2002年の変更点を述べます。

- 1) 事務局2名体制の確立
- 2) 大会参加費の引き下げ
- 3) 連絡会会計と運営機構会計の統合
  - 1) に関しましては、事務局経費を多めに取り、事務局の仕事が増加してきている現状に即した体制をとるということです。
  - 2) に関しましては、i) 学部生および70歳以上の参加費無料、ii) 事前申し込みの値下げ、iii) 一日参加をフル参加の半額に設定が主な柱です。
  - 3) これまで連絡会と運営機構は別々の会計を持っていましたが、連絡会会計運営方法の改善が議決されたことを受け、連絡会会計を運営機構でお世話することになりました。今後の連絡会の開催などにかかる費用は運営機構会計の中から支出されることになります。

これらの改革を行いましても、2001年大会の実績

から考え2002年大会も引き続き黒字で運営できると考えておりますが、これはすべて多くの方の参加あってのことです。是非、皆様、お誘いあわせの上、どうぞ2002大会へご参加ください。

## 6. 総務局報告

2001年担当責任者 岩上 直幹

代々木初回の1998年に比べれば、こちらも参加者も会場に慣れたためか、トラブルらしいトラブルはほとんどなかった。また、一般講演が月曜の午後からで、午前中がアルバイト訓練ほかの準備に使えたのは、会場係としては極めて好都合だった。

トラブルの内、最も多かったのがPCプロジェクターに関するもので、主に対処してもらったアルバイトチーフ・中川君による総括を以下に引用する。設備の改善を要求はしておいたが、次回も期待はできない。

\*\*\*\*\*

### ●オリンピックセンターのプロジェクタの不具合と使い方のテクニックについて (中川 貴司)

1. 部屋によってケーブルの接触が悪くコンピュータからの投影がうまくいかないことが多かった。センターから借りた持ち運びができるプロジェクタでは特に問題はなかった。
2. 画面の解像度があわせにくかった。これはセンターのプロジェクタがもっている解像度が持ち込みコンピュータの解像度に対応していないところに原因があると考えられる。
3. マッキントッシュのコンピュータを使いたい場合はケーブルをつないでから、コントロールパネルのモニタの所を開いてミラーリングという作業をする。ウィンドウズではコンピュータによって同期のさせ方が異なる。

\*\*\*\*\*

## [2] 2002年合同大会のお知らせ

### 1. 概要

●会期：2002年5月27日（月）-31日（金）（5月26日（日）青少年セミナー）

●会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

●費用：

投稿料 早期投稿 1,500円

通常投稿 3,000円

参加費 事前申込（一般） 8,000円

事前申込（学生） 5,000円

当日申込（一般・学生共通）12,000円

事前一日券（一般・学生共通）4,000円

当日一日券（一般・学生共通）6,000円

\*見学学部生・70歳以上の方で、発表しない場合は参加費無料。

宿泊費 ユース5泊コース 13,500円

ユース4泊コース 11,000円

ビジネス5泊コース 23,500円

ビジネス4泊コース 19,000円

●各種登録開始・締切日：

講演投稿

開始：2002年1月10日

早期締切：2002年2月20日午後5時

締切：2002年2月28日午後5時

事前参加登録

開始：2002年1月10日

締切：2002年3月29日午後5時

事前一日締切：2002年5月20日午後5時

宿泊予約

開始：2002年1月10日

締切：2002年3月29日午後5時

\*郵便振込締切：2002年4月26日

●2002年合同大会運営機構メンバー

◇2002年合同大会実行委員長

木村 学 東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

◇運営機構代表

濱野 洋三

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

◇財務局

中村 正人

2002年担当責任者

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

佐々木 正博

国土交通省国土地理院

木村 学

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

佐倉 保夫

千葉大学理学部地球科学科

綱川 秀夫

東京工業大学大学院理工学研究科

地球惑星科学専攻

渡辺 誠一郎

名古屋大学理学部地球惑星科学科

◇企画局

大村 善治

2002年担当責任者

京都大学宙空電波科学研究センター

木村 学

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

安藤 雅孝

名古屋大学大学院理学研究科

地震火山観測研究センター

大谷 栄治

東北大学大学院理学研究科

地学専攻

末広 潔

海洋科学技術センター

深尾 良夫

東京大学地震研究所

丸山 茂徳

東京工業大学大学院理工学

研究科地球惑星科学専攻

安原 正也

独立行政法人産業技術総合研究

所地質調査総合センター

ロバートゲラー

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

◇情報局

宮本英昭

2002年担当責任者

東京大学大学院工学系研究科

地球システム工学専攻

竹内 希

2003年担当責任者

東京大学地震研究所



田近 英一	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻	伊藤 谷生	千葉大学理学部地球科学科
大村 善治	京都大学宙空電波科学 研究センター	小野 高幸	東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻
倉本 圭	北海道大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻	多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻
古屋 正人	東京大学地震研究所	中嶋 悟	東京工業大学大学院理工学研究 科地球惑星科学専攻
林 祥介	北海道大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻	村江 達士	九州大学大学院理学研究科地球 惑星科学専攻
塚本 尚義	東京工業大学大学院理工学研究 科地球惑星科学専攻	近藤 忠	東北大学大学院理学研究科 地球物質科学科
◇総務局		渡辺誠一郎	名古屋大学大学院理学研究科 地球惑星科学科
岩上 直幹	2002年担当責任者 東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻	<h2>2. プログラム局よりセッション 提案のお知らせ</h2> <p>2002年大会プログラム委員長 岩森 光</p> <p>●プログラム委員会予定表</p> <p>8月 : Rセッションの採択基準を定めて, 採 択を行う (S公募開始前, 9月上旬には Rを決定).</p> <p>: Uセッションの採択基準を定めて, 速 やかに公募 (電子メールにて) を始める.</p> <p>* 仮にUとしての採択にもれた場合には, Sに提 案し直せるように締め切りの日程を配慮する必要が ある (10月20日頃締め切り).</p> <p>9月 : Rセッションの決定・一覧表をWE B 上で公開</p> <p>10/1 : Sセッション公募をWE B上で開始</p> <p>10/20頃 : Uセッション公募締め切り</p> <p>10/31 : Sセッション公募締め切り</p> <p>*この時点では大きく不都合がない限り基本的に提 案されたものを受け入れる. 類似のセッションがあ る場合には違いが明確となるように, セッション内 容の説明を改めて行ってもらい, あるいはコンピー ナー同志でセッション合体などを話しあってもら うことはあると予想しています.</p> <p>11月上 : 提案されたセッションの採択と全体的</p>	
石橋 純一郎	九州大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻		
沖野 郷子	東京大学海洋研究所		
中村 美千彦	東北大学大学院理学研究科 地学専攻		
濱野 洋三	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻		
松浦 充宏	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻		
湯元 清文	九州大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻		
渡部 重十	北海道大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻		
◇プログラム局			
岩森 光	2002年担当責任者 東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻		
原 辰彦	2003年担当責任者 独立行政法人建築研究所		
阿部 豊	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻		
吉田 尚弘	東京工業大学大学院総合理工学 研究科環境理工学創造専攻		

## なバランスの検討

\*この時点では、具体的なこま数配分・日程配置はせず、投稿が終わった時点で（2月末締め切り）投稿数を考慮しながら行う。

11/15 : U, Sセッション決定

1/10-2/28 : 予稿集原稿投稿

3月前半 : プログラム編成

3/18 : 投稿者への通知

3月後半 : プログラム最終調整

3/31 : 全調整終了

5/27-31 : 合同大会

## ●コンビナー予定表

9月 : Rセッション一覧表をWEB上で公開

→ 内容確認

10/1-31 : Sセッション提案

→ 提案入力, 日程設定希望（重複回避, 続き）入力

\* Rセッションは決定済み, Uセッションは別途提案になります

11/1-15 : プログラム局, プログラム委員会によるセッション採択

→ 説明文手直し, 類似内容セッション間での検討, 日程設定希望（重複回避, 続き）再入力。

1/10-2/28 : 予稿集原稿投稿

→ 投稿呼びかけ

3/1-8 : プログラム局, プログラム委員会によるセッション日程調整・決定

→ 内容確認, 調整連絡

3/9-15 : プログラム編成

→ 各セッション内時間割, 座長入力

3/16-22 : プログラム局による投稿者へ投稿内容, 日程時間割通知

→ 二重投稿, 投稿漏れ情報収集

3/22-30 : プログラム内容最終調整

→ 最終調整, WEB掲載用セッション注意事項作成

5/27-31 : 合同大会

## ●セッション募集のお願い

2002年合同大会では、以下のカテゴリーを設け、皆様からのセッションのご提案を広くお待ちいたしております。また、このセッション提案に関して、関係の皆様にご周知下さいますようお願い申し上げます。大会トップページ もご参照ください。活発なセッションのご提案をよろしくお願い申し上げます。

旧URL : [http://www-jm.eps.s.u-](http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/jmoo2002/)

[tokyo.ac.jp/jmoo2002/](http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/jmoo2002/)

新URL : <http://www.epsu.jp/jmoo2002/> (9月17日より変更)

## ◇ユニオンセッション (Uセッション) :

多くの学会に共通の要素をテーマとした魅力あるセッションをUセッションとして公募致します。1日1セッション程度, 全て招待講演（他分野から講演者を招待することを想定して, 参加・投稿料は無料）, 長い発表時間が可能となります。詳細と提案方法については, 運営機構事務局ユニオンセッション担当 ([union@epsu.jp](mailto:union@epsu.jp)) までお問い合わせください。

## ◇スペシャルセッション (Sセッション) :

その時々に応じてタイムリーな問題を, 分野枠にとらわれずに議論する場として, 一般から公募します。平均15分/発表程度の口頭発表とポスターから構成されます。10月1日よりWEB上で公募開始予定です。

## ◇レギュラーセッション (Rセッション: 公募は致しません) :

継続性を持たせた方がセッション企画者・発表者・聴衆にとってメリットのあるセッションをレギュラーセッションとして選定いたしました。平均15分/発表程度の口頭発表とポスターから構成されます。一覧は大会トップページセッション情報からご覧下さい。

## 2. 合同大会WEBシステムについて

2002年担当責任者 宮本 英昭

Webによる学会の運営システムは、98年度大会以来5年目となりました。2001年大会においてシステムの使い方に関するお問い合わせはほとんど無く、参加者の皆様にこのシステムを深くご理解を頂いているものと感謝しております。2002年度のwebシステムも、従来のシステムを踏襲したユーザーインターフェースをご用意する方針です。もちろん、まだまだ現行のシステムでは不十分で、参加者の方々にご迷惑をお掛けしている面が多々あるかと思っています。そこで例えば、講演の申し込みを行っている段階で、その原稿のCD-ROMイメージをプレビューできるようにするなど、これまでに寄せられた皆様の御要望により細やかに対応する事によって、更に使いやすいシステムへと改良していきたいと考えております。

さて、2001年度まで使用したwebシステムは、これまで改良を重ねてきたことと昨今のコンピュータ及びネットワーク事情の変化によって、構造的に無駄が生じてきました。そこで2002年度は、今後の技術的進歩も考慮して、手を入れなくても3年程度安定運用が行えるように、設計を大幅に変更する事を予定しております。ただし先に述べました通り、ユーザーインターフェースの変更はあまり行いませんので、利用者の方々にご迷惑をお掛けする事はないものと考えております。

また、これはプログラム委員の方々だけに関係することではありますが、プログラム局の協力を得て、セッションの提案及びセッションプログラムの編集の過程を多少改良する予定です。あわせて、より効果的・効率的にプログラムの編集が行えるように、セッション編集支援ソフトの開発などを行う予定です。

2002年合同大会は、セッション募集（10月）、予稿集投稿（1-2月）、プログラム編成（3月）など、おおむね昨年度通りのスケジュールで行われる予定です。詳細は運営機構のホームページ

(<http://www.epsu.jp>) をご覧下さい。尚、今年度から新たに合同大会運営機構の独自ドメインを取得致しました。合同大会運営機構のホームページだけでなく、合同大会そのもののホームページのトップ画面も移動致しましたので、こちらをご利用下さい (<http://www.epsu.jp/jmoo2002/>)。

## [3] 2003年夏 (6/30-7/11) は、アジア初のIUGG札幌総会へ

組織委員会事務局

海洋科学技術センター深海研究部 末廣 潔

### ● IUGG第23回総会統一テーマ

"State of the Planet: Frontiers and Challenges"

21世紀最初の国際測地学地球物理学連合 (International Union of Geodesy and Geophysics) 総会は日本で開催されます。

IUGGは、上記統一テーマを定め、現在国際プログラム委員会（西田篤弘委員長）によって全体のプログラムを作成しています。今年12月にはこれまでに開催されたIUGG傘下の7協会などからのボトムアップのセッション提案を総合してプログラム内容を決めます。みなさまの参加が総会の成否を決めます。まだ、参加の意思を表明されていない方は、ぜひ下記の情報を参考に、事務局へ参加の意思をお知らせください (IUGG\_service@jamstec.go.jp)。

現時点での、統一テーマによるユニオンセッション構成案は以下の通りです。

- (1) Forecasting, Prediction and Predictability
- (2) Earth Systems and Global Change
- (3) Structure and Dynamics of the Earth's Interior
- (4) Volatiles in Volcanic Arcs: from slab to stratosphere
- (5) GeoRisk and Sustainability on a Crowded Planet
- (6) New Sensors of our Planet: What is possible?

### ● 総会会場

札幌市内に大通り公園と北大植物園の中間に近接

して位置しているロイトン札幌ホテル、北海道厚生年金会館、札幌市教育文化会館、札幌メディアパーク・スピカが、会場として確保されています。また、開会式は、2003年竣工予定の札幌国際コンベンションセンターが予定されています。世界の研究者と交流を深めるすばらしい環境になるはずです。

### ● 情報アクセス

総会関連案内（英文）と組織委員会の活動（和文）は以下にアクセスしてください。

<http://www.jamstec.go.jp/jamstec-e/iugg/index.html>

IUGG本体の活動については、<http://www.iugg.org> にアクセスしてください。ここから、各協会のサイトおよび23回総会情報へもアクセスできます。

セカンドサーキュラーは2002年初頭に発送予定です。ウェブサイトにも掲示します。

組織委員会の活動は、地球物理研究連絡委員会、関連学会会長等懇談会、関連学会連絡会、関連学会にも報告しています。

### ● 国内15学術団体と日本学術会議が共同主催（内定）

正式には、2002年の閣議決定を待ちますが、IUGG札幌総会は、学術会議の関連研究連絡委員会、関連学会の協力によって主催されます。主催する学会は、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本海洋学会、日本火山学会、日本気象学会、日本地震学会、日本測地学会、陸水関連学会（水文・水資源学会、日本水文科学会、日本雪氷学会、日本温泉科学会、日本地下水学会、日本陸水学会、砂防学会、土木学会、日本地球化学会）、日本惑星科学会（順不同）です。地球惑星関連学会を構成する関連学会のみならずのご協力ご支援もぜひお願いします。

### ● 過去4回の参加状況

87年バンクーバー総会：

3939名：海外3400名（日本240）：カナダ 539名

91年ウィーン総会：

4331名：海外4169名（日本250）：オーストリア162名

95年コロラドボルダー総会：

4481名：海外2415名（日本269）：米国2066名

99年バーミンガム総会：

4052名：海外3405名（日本411）：英国647名

### \* IUGG傘下の7協会

International Association of Geodesy (IAG)

International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA)

International Association of Hydrological Sciences (IAHS)

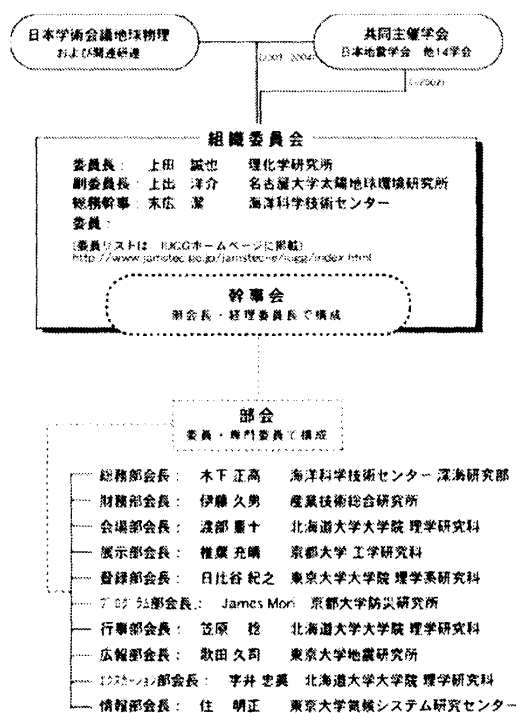
International Association of Meteorology and Atmospheric Sciences (IAMAS)

International Association for the Physical Sciences of the Oceans (IAPSO)

International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior (IASPEI)

International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior (IAVCEI)

IUGG 組織委員会組織図



## [4] 第13回ゴールドシュミット 国際会議 (Goldschmidt 2003) 日本開催のお知らせ

地球化学分野の国際研究集会であるゴールドシュミット国際会議の第13回大会 (Goldschmidt 2003) が、2003年9月に下記の要領で日本において開催されることになりました。

会議名 : 第13回ゴールドシュミット国際会議

(Goldschmidt 2003)

開催時期: 2003年9月7日 (日) ~ 12日 (金)

開催場所: くらしき作陽大学 (倉敷市)

主催 : The Geochemical Society (国際地球化学会)

The European Association of Geochemistry

(欧州地球化学連合)

日本地球化学会

会議の規模: 参加者約800名, 発表論文数約650件  
(口頭およびポスター), 特別講演, 企業  
展示, パンケット, エクスカーション

ゴールドシュミット国際会議は、地球内部・地球表層の組成と物質循環、大気・海洋の組成と物質循環、気候変動、環境汚染、生物地球化学、宇宙物質と地球の形成等の幅広いテーマや、これらの研究を進めるにあたって必要な分析法や実験法を対象とした、地球化学の総合的国際研究集会で、今まで欧州と米国で交互に開催されてきましたが、この度、上記日程で我が国において初めて開催されることになりました。現在、日本地球化学会を中心にして組織委員会を立ち上げ、鋭意準備に取り組んでいるところですが、研究集会を構成するシンポジウムのテーマやコンピーナーの選定にあたっては、既存の学会の枠にとらわれることなく、広く国内外の力を結集する計画ですので、皆さんのご協力をお願いいたします。

(第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会委員長 松久幸敬)

◇連絡先: 第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会事務局

〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門

富樫茂子 気付

TEL:0298-61-3590, FAX: 0298-61-3748

E-mail: s-togashi@aist.go.jp

## [5] 2001年度地球惑星科学関 連学会長懇談会(拡大連絡会) 議事録

日時: 6月8日 (金) 17:00-19:00

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター, C403室

出席者: 阿部豊 (東大: 運営機構)

青木元 (気象研: 日本地震学会)

新井正 (立正大: 陸水学)

荒木徹 (京大: 地球電磁気・地球惑星圏学会)

伊藤 谷生 (千葉大: 地質学会, 連絡会会長)

今井 亮 (東大: 資源地質学会)

岩森 光 (東大: 火山学会, 連絡会庶務担当幹事)

浦辺 徹郎 (東大: 資源地質学会)

大村 善治 (京大: 地球電磁気・地球惑星圏学会)

掛川 武 (東北大: 日本岩石鉱物鉱床学会)

木戸 ゆかり (海技セ: IUGG組織委員会)

近藤 忠 (東北大: 日本岩石鉱物鉱床学会)

鷲谷 威 (国土地理院: 日本地震学会)

佐々木 正博 (国土地理院: 日本測地学会)

里村 幹夫 (静岡大: 日本測地学会)

佐藤 キエ子 (日大: 日本陸水学会)

篠原 雅尚 (東大: 地震学会連絡会委員, 連絡会庶務担当幹事)

杉田 倫明 (筑波大: 日本水文科学会)

鈴木 毅彦 (都立大: 第四紀学会連絡会委員, 連絡会会計担当幹事)

田近 英一 (東大: 日本惑星科学会)

綱川 秀夫 (東工大: 地球電磁気・地球惑星圏学会)

中村 正人 (東大: 地球電磁気・地球惑星圏学会, 運営機構)

浜野 洋三（東大：運営機構）  
 原辰 彦（建築研：日本地震学会・幹事会  
 ニュースレター担当幹事）  
 松浦 充宏（東大：運営機構）  
 松久 幸敬（産技総研：日本地球化学会）  
 丸井 敦尚（産技総研：日本地下水学会）  
 宮本 英昭（東大：運営機構）  
 山野 誠（東大：日本地震学会）  
 山中 高光（阪大：日本鉱物学会）  
 塚本 尚義（東工大：日本鉱物学会）  
 吉田 次郎（東水大：日本海洋学会）  
 渡辺 紹裕（文部科学省総合地球環境学  
 研究所：水文・水資源学会）

以上 33 名

#### 配布資料：

1. 第23回地球惑星科学関連学会連絡会議事録（案）
2. 地球惑星科学関連学会2001年合同大会
3. 2002年の地球惑星科学合同大会の概要
4. IUGG2003年札幌総会開催へ向けての準備状況
5. 第13回 V. M. Goldschmidt Conference（計画書）

#### 議 事：

1. 連絡会と合同大会参加学会から運営機構に対して謝辞が表された。
2. 前回議事録について、学会の名称について修正があることが指摘され、その後修正を含めて承認された。
3. 2001年合同大会報告

（運営機構：浜野）

運営機構から、2001年合同大会実施状況について、資料に基づいて説明があった。参加者は一昨年並（昨年はWPGMとの共催であったので、比較としては適していない）であったが、事前登録者は、一昨年に比べ600名ほど、また、投稿数は一昨年より300ほど増加したことが報告された。団体展示も

総じて好評であったが、書籍のブースについては再考する点があったことも報告された。その後、ポスター会場がやや狭い、各学会の受付の部屋が参加全学会にあったほうがよいなどの意見が出された。また、各学会の会長の講演について、積極的に宣伝をすべきであるという意見が出された。最後に運営機構より各学会に合同大会の実施状況についてアンケートを行うので、協力をお願いする旨報告された。

#### 4. 2002年合同大会について

（運営機構：浜野）

合同大会運営機構から2002年の合同大会の準備状況について、資料を用いて、報告が行われた。会場については、2001年大会と同様に独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターを考えているが、予約受付が10ヶ月前からであり、7月末にしないと確定しないことが報告された。次に参加費と投稿料は2001年大会から変更無しとすること、また、学部学生の見学参加の取り扱い、1日参加費の設定、アルバイト学生の参加費について、高齢者の参加費取り扱いなどが検討中であることが報告された。また、各登録システムに関しては、システムの不具合とインターフェイスの改善を行う旨報告された。また、運営機構については、2002年大会は2001年大会とほぼ同様のメンバーで運営するが、将来を見越して各学会への積極的な参加が呼びかけられた。その後、参加費の取り扱い、展示ブースについて質疑応答が行われた。また、会場で商用電源を利用したい旨の質問があったが、許可制であることが紹介された。

#### 5. 連絡会会計運営方法の改善について

（連絡会会長：伊藤）

運営機構と連絡会の関係について、現在の規約の中でLOCと運営機構を読み替えて、適用する事が了承されていること、また、第23回連絡会において、連絡会が必要とする経費の運営を簡素かつ透明性の高い方法で、運営機構に委託することが了承さ

れていることが紹介された。会長から、その方法として、

1. 連絡会は、運営機構の会計運営に対して、監査を行う。そのために連絡会は2名の監査を選出する。
2. 運営機構に連絡会が保有する資産の運営を委託する。連絡会の経費は、合同大会運営とは別の項目を作り、管理する。

の2点が提案された。その後、別の項目を何という名称にするのかなどの質疑応答が行われ、連絡会としては、以下の2点を承認した。

1. 連絡会は、運営機構の会計運営に対して、監査を行う。そのために連絡会は2名の監査を選出する。2001年の合同大会運営会計状況については、次回連絡会で報告を行う。
2. 連絡会が保有している資産の運営委託については、伊藤会長から、次回連絡会までの経費の名称を含めて提案を行い、次回の連絡会の議案とする。従って、次回連絡会まで、連絡から運営機構に貸与している合同大会運営資金500万円の返還は保留する。

## 6. IUGG 準備状況

(IUGG 組織委員会：木戸)

2003年に予定されているIUGG2003の準備状況に関して、IUGG組織委員会から、資料を使用して説明がされた。まず、IUGG2003は、2003年6月30日から7月11日まで、札幌で開催されることが報告された。また、予算案が作成されたことが報告され、登録料は約4万円を予定していること、運営資金として総額6000万円の募金を行うことが紹介された。この夏から本格的なプログラム作成を始めるので、各学協会への協力が要請された。

## 7. Goldschmidt Conferenceについて

(日本地球化学会：松久)

2003年9月7日から12日に開催が予定されている第13回 V. M. Goldschmidt Conferenceについて、資

料に基づき、説明された。開催場所はくらしき作陽大学で、参加者は国内外から約800名を予定していることが報告された。現在は組織委員会が発足し、今後コンピーナー、テーマなどについて各学会への協力が要請された。

## 8. その他

・運営機構より、合同大会の講演アブストラクトを国立情報学研究所に登録するために運営機構が非営利の学術団体であり、運営機構が一括して登録することを各参加学会が承認していることを文書にて各学会に承認していただきたい旨要請があった。

・IUGGと2003年合同大会の開催時期を大きくずらすことはできないかという質問があり、運営機構側より、検討するが、やや困難である旨回答があった。

## 9. 次期連絡会幹事の選出

次期連絡会幹事会の構成について議論し、伊藤連絡会会長から、これまで会長を引き受けていない参加学会に次期会長をお願いすることが提案された。また、庶務担当幹事及び会計監事は2名とし、各1名を2000年度から留任する事も提案された。議論の結果、以下の方々に次期の幹事をお願いすることとなり、承認された。

会 長： 浦辺徹郎 (資源地質学会)

庶務渉外担当幹事：今井亮 (資源地質学会)

・篠原雅尚 (日本地震学会留任)

会計監事：近藤昭彦 (水文・水資源学会)

・鈴木毅彦 (第四紀学会・留任)

ニュースレター担当幹事：青木元 (日本地震学会)

## 10. 次回連絡会会合の日程

9月14日 (金) 東大理学部5号館4階講義室 (403号室) 15時 - 17時の予定で行われる。

## [6] 第24回地球惑星科学関連学会連絡会議事録（案）

日 時：2001年9月14日（金） 15:00-16:00

場 所：東京大学理学部5号館，403室

出席者：阿部 豊（東大：日本惑星科学会对外協力委員長，運営機構）

荒木 徹（京大：地球電磁気・地球惑星圏学会）

伊藤 谷生（千葉大：日本地質学会）

今井 亮（東大：資源地質学会，連絡会庶務担当幹事）

岩森 光（東大：日本火山学会，運営機構）

浦辺 徹郎（東大：資源地質学会，連絡会会長，運営機構）

大村 善治（京大：運営機構）

木村 学（東大：運営機構）

近藤 昭彦（千葉大：水文・水資源学会，連絡会会計担当幹事）

近藤 忠（東北大：日本岩石鉱物鉱床学会）

近藤 豊（東大：日本気象学会）

鷲谷 威（国土地理院：日本地震学会）

佐々木 正博（国土地理院：日本測地学会，運営機構）

篠原 雅尚（東大：日本地震学会，連絡会庶務担当幹事）

杉田 倫明（筑波大：日本水文科学会）

鈴木 毅彦（都立大：日本第四紀学会，連絡会会計担当幹事）

田近 英一（東大：日本惑星科学会，運営機構）

網川 秀夫（東工大：地球電磁気・地球惑星圏学会）

中村 正人（東大：地球電磁気・地球惑星圏学会，運営機構）

浜野 洋三（東大：運営機構）

林武 司（千葉大：日本地下水学会）

丸井 敦尚（産技総研：日本地下水学会）

宮内 崇裕（千葉大：日本第四紀学会）

宮本 英昭（東大：運営機構）

村上 隆（東大：日本鉱物学会（代理））

吉岡 龍馬（富山大：日本地下水学会）

以上26名

### 配布資料：

1. 連絡会会計運営方法の改善について（提案）
2. 2001年度地球惑星科学関連学会長懇談会（拡大連絡会）6/8議事録（案）
3. 地球惑星科学関連学会2001年合同大会決算報告書
4. 2002年の地球惑星科学合同大会の準備状況

### 議事：

1. 2001年度地球惑星科学関連学会長懇談会（拡大連絡会）6/8議事録の承認出席者名について修正があることが指摘され，その後修正を含めて承認された。

### 2. 2001年合同大会会計監査報告

連絡会会計担当幹事（鈴木）より，2001年8月15日，運営機構事務局（東京大学 内）において地球惑星科学関連学会2001年合同大会決算報告書（配付資料）の監査を行い，予算の執行，帳簿・証票の整理等，正常適正に処理されていることを確認した旨が報告された。

### 3. 連絡会会計運営方法の改善について

連絡会会長（浦辺）より，前回継続審議となった運営機構と連絡会の関係（連絡会が保有している資産の運営委託）について，名称も含め次のように提案され，原案の通り承認された。

『連絡会がストックしている，2000年までの合同大会開催で生じた黒字分の繰越金は，連絡会会計事務の煩雑さをさけるために，運営機構会計収支簿のなかに新たに設ける「連絡会管理基金」として記帳する。なお，合同大会が赤字になった場合は，2000年6月28日拡大連絡会確認に従い，この「連絡会管理基金」より補填することができる。』



#### 4. 2002年合同大会（2002年5月27日～31日）、合同大会参加の準備状況について

合同大会運営機構代表（浜野）からの2002年の合同大会の準備状況の概要の紹介、2002年合同大会実行委員長（木村）からの挨拶に引き続き、配付資料を用いて、各局 責任者より以下のような準備状況の報告が行われた。

・財務局（中村）より、配付資料により2001年合同大会決算および上記3. の措置 に基づいた2002年合同大会の予算案・収支見通しが示された。

・プログラム局（岩森）より、配付資料によりプログラム委員会作業日程、コンビーナー作業日程、セッション提案の方法等について説明があり、セッション提案について各学会員への周知、提案について協力が求められた。

・情報局（宮本）より、2002年合同大会用ホームページURLの変更が紹介された。新しいURLは、[www.epsu.jp/jmoo2002/](http://www.epsu.jp/jmoo2002/) である。

\*2002年合同大会の情報については、上記ホームページおよび連絡会ニュースの記事をご覧ください。

#### 5. 各学会の2001-2002年度の年会・講演会等の情報交換

出席した各学会連絡員により、書面にて申告された2001-2002年度の年会・講演会等の日程は以下の通りです。

##### 日本火山学会

2001年10月1日～3日、秋季大会、鹿児島大学

##### 日本岩石鉱物鉱床学会

2001年9月29日～30日、総会・学術講演会、秋田大学

2002年9月末（調整中）、総会・学術講演会、大阪大学

##### 日本気象学会

2001年10月10日～12日、岐阜県民文化ホール

##### 日本鉱物学会

2002年10月1日～3日、創立50周年記念シンポジウム、総会、大阪大学

##### 資源地質学会

2001年9月28日～29日、秋季講習会、秋田県内

2001年9月30日、三鉱シンポジウム、秋田大学

2001年11月4日、国際シンポジウム、九州大学

2002年6月19日～21日、年会学術講演会、東京大学

##### 日本地震学会

2001年10月24日～26日、秋季大会、鹿児島市

2002年11月11日～13日、秋季大会、横浜市

2003年10月6日～8日、秋季大会、京都市

##### 日本水文科学学会

2002年6月8日～9日、学術大会・総会、日本大学文理学部

##### 水文・水資源学会

2002年8月22日～24日（調整中）

##### 日本測地学会

2001年10月14日、公開講座、札幌市

2001年10月15日～17日、第96回講演会、札幌市

2002年8月、サマースクール

2002年10月、公開講座、第98回講演会

##### 日本第四紀学会

2002年8月23日～26日、信州大学

##### 日本地下水学会

2001年10月11日～13日、秋季大会、秋田

2002年5月25日～26日、春季大会、東京

この他技術講習会などの予定

##### 地球電磁気・地球惑星圏学会

2001年11月22日～25日、秋季大会・講演会、九州大学

##### 日本地質学会

2001年9月21日～23日、学術大会、金沢大学

日本惑星科学学会

2001年10月6日～8日、岡山理科大学

# 学会誌原稿作成の手引

日本惑星科学会編集専門委員会

## 1. 原稿の様式

はじめに委員長宛に投稿するときはプリントアウトした原稿2部、最終稿では原稿2部（1部に字体、図表の位置指定）とテキストファイルを提出すること。原稿は、原則として、ワープロにより作成されたものとする。また、テキストファイルはフロッピーまたは電子メールで送付のこと。テキストファイル以外の場合は事前に編集幹事に相談のこと。

## 2. タイトル

記事のタイトルは15字以内。また、タイトル、筆者名及び所属を和文・英文両方で付す。

## 3. セクション

セクションは1., 2., ..., サブセクションは1.1, 1.2, ..., 細区分は(1), (2), ..., の記号を頭に於て、左寄せ、行末改行とする。また文中での区分けは(a), (b), (c)を用いる。これら記号はすべて半角文字を用いる。セクションタイトルは12文字以内で簡潔に、また、セクションタイトルとして“はじめに”、“おわりに”、“まとめ”は避ける。

## 4. 述語

専門用語はなるべく避けるか、十分な説明をつける。特に、対応する日本語がある場合、英語・英略語は使わない。

## 5. 字体

数字、英字は半角とする。また(, ), [, ], :, ;など区切り記号も半角を用いる。本文は立体(ローマン)、数式はイタリックで組む。本文中のイタリックは下線、数式中の立体(ローマン)は2重下線、ゴチック(ボールド)は鼓下線で朱記指定する。

## 6. 単位

使用単位については特に統一しない。ただし、 $\text{gcm}^3$ ,  $\text{cms}^{-1}$ などとはせず、 $\text{g/cm}^3$ ,  $\text{cm/s}$ とする。

## 7. 句読点

句読点は全角の“,”、“.”を用いる。

## 8. 図、表、画像

文中での図表の引用は“図1”、“表2”の形をとる。最終項送付に際して、図表、画像の刷り上がり時の大きさと位置を指定のこと。画像の投稿については、1) 写真の場合：印刷時実寸以上のサイズで鮮明なもの、2) 画像ファイルの場合：印刷時実寸で350dpi相当以上、形式はtiffが望ましい。他の文献から図表を転載する場合には予め編集委員会に照会のこと。

## 9. 脚注

脚注は“1”などの記号をつける。

## 10. 文献の引用

引用文献は重要なものに限る。目安として10項目以内にする。本文中での引用は[1], [2]の形で通し番号をつけ、論文の末尾に一括してリストを載せる。使用言語は原論文に従い。論文名は省略する。3人以上の著者はet al.または他と表記する。形式は以下に従う。

### 参考文献

- [1] Wakusei, T. and Kinsei, S., 1989: *Astrophys.* **220**, 293-330.
- [2] Wakusei, T. et al., 1999: *J. Geophys. Res.* **123**, 4567-4572.
- [3] 惑星太郎, 1992: *天文月報* **85**, 186-190.

## 11. 原稿の送付先

投稿時の原稿送付先は

152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1  
東京工業大学大学院理工学研究科  
地球惑星科学専攻 井田 茂

FAX: 03-5734-3538

E-mail: ida@geo.titech.ac.jp

最終稿の送付先は

464-8602 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院環境学研究科  
地球環境科学専攻 (理学部E館気付)

城野信一

FAX: 052-789-3013

E-mail: sirono@eps.nagoya-u.ac.jp